

# 知恵の樹

No. 157 2011. 2. 16

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 『お江 戦国の世を生きぬいて』を書いて

児童文学作家 国松俊英

昨年12月に、児童書『お江 戦国の世を生きぬいて』（フォア文庫）を出した。いま話題になっているNHKの大河ドラマ「江一姫たちの戦国」の主人公の生涯を書いたものである。子ども向けにお江を書くという仕事は、とても難しい仕事だった。戦国時代の姫君の生き方について書かれたものは少ないし、まして浅井長政の三女について研究した本などほとんどない。お江の子ども時代のようなすなど、何も記録がのこっていないからだ。



さいしょは書く気はなかったのだが、親しい編集者の熱心な依頼だったし、お江が私の出身地である滋賀県の人でもあったので、つい引き受けてしまった。引き受けてから締め切りまで時間があまりなかった。それで書き上げるまでは、自分でもどうなることやら心配だった。

お江の本を書く前は、「伊能忠敬」の執筆で苦勞していた。伊能忠敬の仕事は、2011年度から改訂される新しい小学校国語教科書、六年生用に載せる作品だった。数年前に、教科書会社のA社から伊能忠敬の伝記を書き下ろしで書いてほしいと頼まれていたのである。

千葉県佐原の商人として成功した忠敬が49歳で隠居して、そこから新しく学問をやろうと志して歩み出す人生はすばらしい。そして、日本列島の海岸線のほとんどを自分の足で歩いて、日本地図を

作りあげたその努力は、すごいという他はない。教科書会社から依頼される前、忠敬についての本は少し読んでいて、その人生に興味を持っていたので引き受けた。

しかし仕事は大変だった。まず原稿用紙20枚で忠敬の人生と仕事を書かなければならないことである。少年時代、佐原時代、学問修行時代、日本列島を歩き始める時代、日本地図を本格的に作り出す時代……。どうやれば、それらを20枚におさめられるのか。どうしても解説的な文章だけで終わってしまう。けれど編集者は、「ここという場面は、いくつか目に浮かぶように書いて下さい」と難しいことを注文してくるのだった。

つぎに、教科書制作には編集委員というえらい先生方がいて、私が書く内容にいろいろ注文をつけてくるのだった。私が書いたものと先生方の考えが異なっていて、完成までに何度も書き直しをすることになってしまった。20枚の作品を完成させるのに、とても長い時間と苦勞が要った仕事だった。

そんな仕事の後で、お江の生涯に取り組んだ。お江について集めた資料を読んでいくと、本当にすごい人だなと思った。長政の城、柴田勝家の城、二度の落城に出会いながら生きのびて、戦乱の時代を生きていったたくましさはすばらしい。その後も、秀吉の政略の道具となって結婚をさせられた。さいしょの結婚はなんと12歳の時であった。一度目、二度目とも、たった1年で結婚は破綻してしまう。人生を投げ出したと思うような場面に何度も

会いながら、それを乗り越えていったのは、二度の落城をくぐりぬけ体験で必ず生きぬくという生への強い意思とエネルギーがあったからだろう。

本能寺の変、賤ヶ岳の戦い、秀吉の統一、朝鮮出兵、関が原の戦い、大坂の陣……とお江が生きた時代は、日本の歴史で大きなできごとがあった時代だった。お江の生きていく日々と、それらの背景を正確にわかりやすく書かなければならない。私は、これまで歴史物語をたくさん書いてきたわけではないから、家には戦国時代や江戸時代にかけての資料が乏しい。

それで考えたのは、執筆に入る直前に何日か町田中央図書館に数日こもることだった。といっても図書館は泊めてくれないので、ホテル・ザ・エルシィに泊まって中央図書館で調べさせてもらうことにした。ホテルからエレベーターで直接図書館に行けるのだから、こんなにいいことはない。すぐにホテルを予約した。

朝、開館と同時に図書館に入って、その時代の

武将や合戦のことなどを徹底的に調べていった。本を探し読んでみると、あつというまに閉館の時間になる。ホテルの部屋に帰って調べたことを整理して、それらの材料をどう作品に書いていくか、考えをめぐらす。わからないことや新しく知りたいが出てくれば、つぎの日の調査材料として上げておく。

4日間その作業を繰り返して、お江の物語の背景はしっかりまとまっていき、作品の形はでき上がっていった。ホテルに泊まりながら中央図書館に通ったのははじめてだったが、とても成果が上がった。その後家にもどって原稿を書いていき、なんとか締め切り日に作品は書き上がった。いつも町田の図書館にはお世話になっているが、お江の本も中央図書館とホテルのおかげで書き上げることができた。

ホテルの宿泊費ですか、出版社からはもらっていません。(本会会員・山崎町在住)

## 第13期図書館協議会第15回定例会<2011年2月1日(火)>

### ◎報告事項

1. 嘱託職員採用経過の報告/12/24 町田市 HP 及び日本図書館協会 HP に募集掲載、1/1 広報募集掲載、1/20 応募締切。223 人応募、1/31 集合試験(1次試験)実施。10 名程度採用予定。
2. 新鶴川図書館の進捗状況/工事着工。駅前であることを考慮して開館時間等の検討の必要あり。協議会委員からは利用者用インターネットの利用についても前向きに検討して欲しいとの意見あり。
3. 忠生市民センター建替に伴う図書館建設進捗状況/市民ワークショップを実施(市民センターについて)図書館スペースの規模はまだ確定されていない。全体の進捗に併せ図書館内部でも検討する。
4. 平成 22 年度東京都多摩地区公立図書館大会について/テーマ「多摩地区図書館からの発信:市民の図書館 40 年」。2/8(火)13:30 から国分寺市立いずみホールにて開催。パネルディスカッションでは、市民として増山正子氏(町田の図書館活動をすすめる会代表)がパネラー参加。
5. その他/\* 都立多摩図書館の施設整備について:東京都教育庁の HP に報道資料として施設建て替え(移転新築)の情報掲載。理由は、立川にある現在の多摩図書館老朽化かつ手狭(4300 m<sup>2</sup>)のため。西国分寺駅近くに新館(敷地 7000 m<sup>2</sup>、延床面積 9000 m<sup>2</sup>、書庫 4000 m<sup>2</sup>)を建設と発表/\* 図書館評価についての市民からの意見(8通)。意見募集期間は 2010/11/30~12/28。公表された評価結果に対して関心を持っている市民が多いことが伺える。また、今後の評価の方法、外部評価のあり方についても考えるべき点がある。(具体的内容は協議会委員には公表されたが、ここでは割愛する。)

### ◎審議事項

1. 図書館の理念と目標の継続審議/協議会は「理念と目標」のあり方を考え、それを答申にまとめる。具体的な「理念と目標」は図書館の責任で作成。前回の議事録を参考にさらに議論を煮詰めた。次回 2/22(水)開催の協議会にて答申の骨子をまとめる方向で作業中。

最後に:松尾委員長より、小金井市図書館協議会が昨年 10 月に開催した小金井市図書館協議会図書館フォーラム「小金井市立図書館のいまとこれからを考える」の報告書を紹介。市民と図書館の架け橋として行動する図書館協議会の活動と、市民の関心の高まりが反映されている。

(文責:山口洋、協議会委員・本会会員)



### 第3回 『子どもへのレファレンス』

講師：上平 操さん(元小学校司書教諭・会員)

1月22日(日) 13:50～16:00(参加者10名)

町田市立中央図書館 中集会室にて

今回は、長年、町田市の小学校で司書教諭をしておられた上平操さんを講師に、「学校図書館を運営するにあたって」と題して、まず基本的なこと一調べ学習の本の手渡し方、学校図書館に用意すべき本について一お話しいただき、後半は参加者がレファレンスの為の本を実際に選んで発表し合う、という形で行なわれました。

#### 1. 学校図書館を運営するにあたって

学校図書館が公共図書館と違う点は、教育課程に寄与する為の図書館であること。「何か子どもが言ってきたら手ぶらで帰すな」という図書館学の恩師の言葉を実践するよう心がけている。

レファレンスは図書館の仕事で一番楽しいものだが、資料を探すノウハウの日頃の勉強が大切。

##### 教育課程に活用できる図書館

年間指導計画をもとに各学年へのサービスを考える。年末に蔵書点検をする。蔵書構成は、その年度1年間の他に3年間(消耗の激しい物)・5年間(調べ物のツール)を見通して計画／百科事典等のレファレンス図書を充実させる(地図帳は帝国書院に頼むと無料で1学級分貸与)／市立図書館のレファレンスや団体貸し出し・物流を利用。

##### 図書資料の収集方法

全国学校図書館協議会の刊行物・出版社のカタログ・新聞などの書評・児童や職員からの情報。(必ず実際の本を店頭や市立図書館で、内容・丈夫さ等を確認してから購入する。)

##### 受け入れ・配架・廃棄

分類・配架はNDC9版3桁。レファレンスに応える為には3桁必要。3桁目を0にしても3桁に統一。分類を業者に頼むとシリーズは全部同じになるので、各学校で分類するのが望ましい／副本は基本2冊まで。総合で使うものは10冊用意するが、

別置／廃棄とは子ども達が利用し易いようにするための物と考えるとよい。書架が使い易くなればレファレンスもし易くなる。2段階廃

棄(書架から外し準備室へ⇒リクエストが無ければ廃棄)も一方法。

\*廃棄基準:図書自体が破損しているもの／表紙や背表紙が読み取れないもの(配架時遮光に気をつけること)／文学以外は出版後10年経ったもの／2年間一度も利用されていないもの

#### 2. 実践 レファレンス練習問題

子どもから質問された時に手渡す本を探すのが、今日の課題。用意された問題に相応しい本を3冊以上、4階児童書のコーナーから15分で探し、会議室に戻って、本の情報(分類番号・書名・出版社名・出版年・内容注記)を用紙に記入し、発表した。例を2つ挙げておく。

##### ◇シューベルトに関する児童書をさがしなさい

『ジュニア音楽百科／シューベルト』(伝記)／音楽ものがたり『魔王』／『オーストリア』・・・シューベルトという漠然とした課題だったので、伝記・作品・出身国といった多方面の分類から選んでみた。

##### ◇自動車の製造に関することが載っている児童書をさがしなさい

『図説 日本の産業 自動車』／『はたらくじどうしゃ 自動車なんでも百科』／『エコカーのしくみ見学1 ハイブリッドカー』・・・『エコカーのしくみ見学1』は自動車の製造については書かれていないが、エコカーについての初めて出た本だと思うので、選んだ。

実践を伴った講演会は大変楽しく有意義でした。子ども達には、図書館オリエンテーリングと題し、「図書館にどんな本があるか知るための練習をするよ!」と言って図書の時間の10分くらいを使ってやるそうです。レファレンスを充実する為には、図書館員の普段の資料の勉強と、分類・配架の整備

がとても大切だということを改めて認識しました。町田市の図書ボランティア(図書指導員)という立場では、そういったサービスの活動もままならないのが現状です。今後も子ども達の為に学校図書館に

司書が必要なことを訴えていきたいと思います。

今回の講演は、宣伝が遅く、多くの方にお知らせできなかったのが、参加者が少なかったのは大変残念でした。  
(報告:市川)

### 読書のために、できること(6)

## ～ 全国調査のデータ ～

鈴木 薫

この連載をはじめたきっかけである、シンポジウム『「やさしく読みやすい本」が読書の扉をひらく!』から、1年が経とうとしている。このシンポジウムでは、特別支援学校の図書館の実態調査報告も行われた。そのときに強調されていたのは、“読書＝机に向かって黙読”というイメージからの脱却についてである。

“特別支援学校の生徒”という括りの中には、知的障害、発達障害、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、それらが重複している生徒が含まれている。もし「読書」という行為の解釈を「机に向かっての黙読」と限定してしまったら、それらの生徒は読書ができないということになってしまう。読書とは、文化とのふれあいであり、知の探究である。文化のふれあいや知の探究を行う前で、必要とされるメディアは必ずしも、「本」という形状をとっていなくてもよい。生徒のニーズ(たとえば、視覚障害に対しては朗読)に合わせたメディア(朗読テープやマルチメディアDAISYなど)を提供すること、それが特別支援学校における読書の提供になる。障害によって“読書”が満足にできない。だから、特別支援学校に学校図書館は不要。という結論には至らないのである。

さて、実態調査のデータを見ると、まず特別支援学校は現在、深刻な教室不足にあり図書室が兼用されていることが多い。これまでも触れてきたように、我が校でいえば本は総て廊下に出ていて、旧図書室は普通教室になっている。生徒は書架用

の少し斜めに切り取られた棚をロッカーとして使っていた。司書教諭の配置率は54.2%。しかし、ほぼ全員が担任などを兼任。司書教諭の職務のための時間的配慮の実施率は7.4%。平均時間数は2.8時間。学校司書(司書教諭は先生だが、学校司書は事務補助にあたる)の配置率は10.1%。鳥取が先駆的であるという。学校図書館の年間経費は平均22.6万円。ただし、知的障害校は19.3万円で、視覚障害校は31.8万円である。総じて蔵書数にも差があり、全体は4474冊だが、知的障害校は2302冊に対して視覚障害校は10310冊。知的障害校の図書以外のメディアで、最も多い蔵書メディアは紙芝居。知的障害校における図書の蔵書数は、期待するほど多くはないだろうと感じられる。

課題として見えてくるのは、担当者、予算、蔵書と、学校図書館としての根幹そのものだ。だが、要するに現時点において、行政も現場も、「特別支援学校には何が何でも図書館が必要なんだ!」という危機感や問題意識を抱いている人が、たいして多くないということなんだと思う。3年間、特別支援学校で仕事をしていて、廊下に並んでいる本を見て「こんな状態は絶対におかしい!」とつぶやいている人に、私はまだ出会ったことがない。

(次号に続く)

### 【参考】

藤原和子・服部敦司(編著)『LLブックを届ける』読書工房、2009

実態調査データは、シンポジウム『「やさしく読みやすい本」が読書の扉をひらく!』において野口武悟氏が発表した「実態調査から見える特別支援学校図書館のいま」のレジュメより参照。野口氏は2007年11月～12月に全国調査を実施している。

## 2010年度 学校図書館大交流会に参加して 石井 一郎

去る1月22日、座間市立図書館にて学校図書館大交流会実行委員会(学校図書館問題研究会神奈川支部、図書館とともだち・鎌倉他3団体)主催の表記の会が開催された。神奈川の学校図書館に関心ある人々を対象として湘南地区を会場として行われていたが、今回初めて県央地区で開催された。

はじめに、相模原市立藤野小学校(山梨県境に近いところに位置する)の赤木裕朗先生から、学校で取り組んでいる読書活動の実践報告—実践例とビデオの紹介—があった。

読書活動は読書習慣形成と読書力の向上を目的として、学校・家庭・地域で行われている。

### 学校での取り組み

国語科の授業を中心にした年間計画に基づいた読書活動&ブックショップ活動。

読書年間計画での指導と活動/1年生・・・①好きなどころの絵を描く、②好きなどころの絵と文を書く、③好きなどころの絵と文とわけを書く、④お話カードを作成、また劇などで発表をする/4年生・・・①主人公の性格や状況をまとめる、②出来事を追って、あらすじをまとめる、③場面の展開に沿って、話の内容を一文にまとめさせ、キャラクターカードを作成する、といったように、学年ごとに指導内容を決め、段階的にお話カード・読書郵便・読書ポスター・キャラクターカード・帯・ブックナビ・劇などをして子どもたちに本を理解させ、表現させている。

ブックショップ/各クラスでテーマと店の名前を決め、本を紹介。紹介方法は劇などで発表する。2009年度の例では1年1組のテーマは楽しいお話、店の名前は「おもしろズー」、紹介した本は「はらぺ

こあおむし」と「ぶたのたね」と「はらぺこへびくん」。4年2組のテーマはシリーズ、店の名前は「きみも名たんてい!」、紹介した本は「いつのまにか名たんてい」と「ひるもよるも名たんてい」と「雨上がりの名たんてい」。

**家庭での取り組み**・・・毎月第2週目は家読(うちどく)週間。親子で一緒に読書したり、親が子に読み聞かせなどをしたりしている。

**地域の取り組み**・・・学校図書館ボランティアの協力と公共図書館との連携をしている。

藤野小学校の読書活動はここ3年の活動で、読書を中心としたものだった。今後は調べ学習にも力をいれ取り組んでいく予定とのこと。

報告のあと、休憩時間があり、会場後ろで展示されていた藤野小学校の子どもたちの作ったお話カードやキャラクターカードやブックナビなどを手にとって見る事ができた。力作ぞろいだった。

休憩後、各地の情報交換が行われた。情報交換のテーマはレジメにあった ①藤沢市の学校司書配置②大和市の学校司書配置 ③座間市の学校司書配置④住民生活に光をそそぐ交付金 ⑤茅ヶ崎市子ども読書活動推進計画について。各地の学校司書の現状についてや交付金の話などの発表があり、会が終了した。(会員)

### 平成22年度 東京都多摩地域公立図書館大会

主催：東京都市町村立図書館長協議会

#### 『市民の図書館40年—多摩地区図書館からの発信—』

今年は『市民の図書館』(社団法人日本図書館協会)が発刊されてから40年。「市民の図書館」の実践が日野市から始まり、多摩地域にも市民運動を背景に広がっていったとされることから、「市民の図書館」とは、をキーワードに、この秋「全国図書館大会」が多摩地域で開催される。それに繋げるということも含めて、表記の会の第1分科会『多摩地区図書館の歩みとこれからの展望』が去る2/8(火)国分寺市立いずみホールで開催された。

基調講演に立った山口源次郎氏(東京学芸大教授)は、戦後の図書館の歩み・社会的基盤・多摩地域の図書館が果たした先進性や現状の問題点などを『市民の図書館』を基点に格調高く話された。

その後、司会=斉藤誠一氏、パネラー=鬼倉日野図書館長・小池調布図書館長・増山(市民)によるパネルディスカッションが行われた。昨今図書館を巡る危機感から市民運動の盛り上がりを感じられるが、その影響からか、主催者の予想に反して約200人近い参加者の中に多くの市民の姿が見られた。町田からは、図書館長ら主だった職員と山口さんが参加され、図書館員が一人も参加していない他市の市民から羨ましがられた。(増山)



# ひろば

〈例会報告〉

1/20(木)18:00~21:30  
新年会／食いものや「熊」  
会報 156 号印刷 (16:00~)  
伊藤、丸岡、桃澤、増山

出席者：石井、伊藤、片岡、久保、近藤、  
高橋、玉目、手嶋、増山、丸岡、水越、  
桃澤、守谷、山口、野角、山本

1月例会は、「新年会」でした。今年から、嘱託組合として会に出られる山本香織さんも参加してくださり、職員6名、市民10名、の会員が、くじで決まった席に着き、「熊」の美味しい食事をいただきながら、飲み、喋り、とすすめる会にふさわしい？新しい年の始まりの会でした。「熊」のマスターからの美味しいお酒の差し入れで、呑兵衛たちは大喜び。毎年、ありがとうございます！（幹事は、伊藤さん、丸岡さん）

- 新年会で話題になった事柄(丸岡さんの記憶から)
- ・各自、自己紹介と近況報告
- ・嘱託職員組合の待遇改善をもとめる署名運動「全国臨時・非常勤職員の処遇改善・雇用安定に向けた法改正を求める署名」(156号p4参照)について。皆さんご協力を！
- ・多摩市の図書館協議会の存続を巡る問題
- ・成瀬センター建て替えに関する話し合いが関係各者・団体で持たれているが、そこで活動している「かえで文庫」には何の話も来ていない。今後について、どうすればよいのか・・・。
- ・この先の、町田市立図書館地域館の建て替え状況、問題等について。
- ・今年、10月13日・14日、多摩地域で開催予定の「全国図書館大会」の分科会について、等々

## 講演会 「2010年度児童書から

### —どの本読もうかな?!」

講師：広瀬恒子さん

(親子読書地域文庫全国連絡会代表)

3月8日(火)14:00~16:00

町田市立中央図書館6Fホール

〈資料費 500円〉

年間 3000 タイトルもが出版される子どもの本。どんな本を子ども達に手渡していけばよいのか、悩んでいる方も多いのでは？ 広瀬さんがこどもの本の社会状況とおすすめの本を紹介して下さる恒例の講演会です。

直接会場へどうぞ！

〔問：事務局 電 & Fax 042-722-1243 増山〕

2010年度 第12回 文学館(主催)で楽しむ

### おとなのためのおはなし会

3月17日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

#### プログラム

- \*町田ゆかりの作家「添田知道」 小林陽子
- \*月光のうた (マケドニアの昔話) 西村敦子
- \*たにし長者 (日本の昔話) 佐々木令子
- \*握手 (井上ひさし/作) 神保俊子

直接会場へどうぞ！ 無料

保育あり(問：町田市民文学館 ☎042-739-3420)

★国際子ども図書館の講演会「日本の子どもの文学—昨日・今日・それから」/展示会「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」(2/19/土~)監修者の宮川健郎氏(武蔵大学文学部教授)と児童文学の専門家である神宮輝夫氏(青山学院大学名誉教授)各氏講演とお二人の対談/3/12(土)14:00~16:30/国際子ども図書館ホール(3F)/定員100名・無料/事前申込制2/22締切/詳細↓

<http://www.kodomo.go.jp/event/evt/bnum/event>

<http://www.kodomo.go.jp/event/evt/bnum/event>

★親地連 40周年記念のつどい/3/5(土)13:30~14:30 対談「あまきみこ氏&広瀬恒子氏」/16:45迄参加者同士の歓談(お茶と軽食付き・参加費 2500円(要申込)/同日10:00~第13回地域連絡会交流会・千葉市文庫連絡協議会からの話題提供があります/問:市川 03-3488-8138

★〈子どもの本・九条の会〉第5回学習会/非武装地帯に春よ来い!~朝鮮半島の歴史と現在を正しく知るために~「絵本『非武装地帯に春が来る』ができるまで」大竹聖美さん/3/12(土)13:30~16:30/国立オリンピックセンター センター棟 513号室/500円/問:西山 [Carta9zo-kun@hotmail.co.jp](mailto:Carta9zo-kun@hotmail.co.jp) fax 0493-54-7947

#### あとがき

にわか勉強で『市民の図書館』を読み直し多摩地域公立図書館大会(P5参照)にパネラーとして参加した。「貸出」「児童サービス」「全域サービス」を3つの最重点目標として、市民の図書館はこの40年発展してきた。ここに来て、基本路線からさまざまな枝葉が出てきて物議を醸しだしている気配も感じるが、それはさておき、多摩地域の中でも他自治体が行政主導で発展してきたのに比して、町田の図書館は市民運動によって大きな進歩を遂げてきたといえる。大先輩浪江先生の功績は大きく、「主権者としての住民と、全体の奉仕者としての公務員の連帯と協働」の市民運動は、これからも図書館の発展を促すカギとなるであろう。しかし、浪江先生がいう「住民はサービスを受ける主体ではなく、良い施策を生み出し育てていく主体である」の「住民」は育っているのだろうか？(M<sup>4</sup>)